



2026年1月14日

各 位

会 社 名 株式会社識学  
代表者名 代表取締役社長 安藤広大  
(コード番号7049 東証グロース)  
問合せ先 経営推進本部長 和田垣幸生  
(TEL：03-6821-7560)

## 2026年2月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

株式会社識学（東京都品川区、代表取締役社長 安藤広大）は、2026年1月14日の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2026年2月期（2025年3月1日～2026年2月28日）の通期業績予想について、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2026年2月期通期連結業績予想の修正（2025年3月1日～2026年2月28日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 7,100	百万円 950	百万円 954	百万円 687	円 銭 81.73
今回修正予想（B）	6,500	500	520	360	42.80
増減額（B－A）	▲600	▲450	▲434	▲327	—
増減率（％）	▲8.5	▲47.4	▲45.4	▲47.6	—
（参考）前期連結実績 （2025年2月期）	5,369	330	356	426	50.06

#### 2. 修正の理由

##### （1）売上高

前回発表予想を600百万円下回る6,500百万円となる見込みです。主な要因は以下のとおりです。

スポーツエンタテインメント事業において、B.LEAGUE PREMIER参入要件である「1試合平均入場者数4,000名」の達成を最優先戦略とし、集客施策に注力いたしました。

その結果、第3四半期累計期間の前半節においてスポンサー営業へのリソース配分が限定的となり、スポンサー収入が計画を下回りました。また、チケット売上についても計画未達となりました。

また、識学事業本体におけるプラットフォーム売上および新規事業の売上が計画を下回って推移いたしました。

## （２）営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益

売上高の未達による利益減少に加え、費用面において以下の増加要因が発生いたしました。

まず、スポーツエンタテインメント事業において、B.LEAGUE PREMIER参入要件である「1試合平均入場者数4,000名」の達成を最優先戦略とし、集客施策を10月から12月にかけて積極的に展開した結果、想定を上回る費用が発生いたしました。

次に、当社グループが運営するファンドにおいて、保有している複数の投資有価証券について減損損失が発生し、費用を計上いたしました。

さらに、M&A関連費用について、現在実施中のデューデリジェンス費用が当初想定を上回ったことに加え、来期以降のM&A推進体制強化に向けた先行的な人材採用を行ったことで、採用費および人件費が増加いたしました。

以上の結果、営業利益は500百万円（前回予想比450百万円減）、経常利益は520百万円（同434百万円減）、親会社株主に帰属する当期純利益は360百万円（同327百万円減）となる見込みです。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、

実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なることがあります。

以 上